「コミュニケーション上手」になるために

人見知りの激しい（？）私は、常々初対面の人と最初はどうコミュニケーションを取るかに苦慮している。そうした折り、新聞の書籍広告で「コミュニケーション上手は質問上手」が目に入り、早速読破。

著者曰く《「　」後の（　）内は私の一人言》、「コミュニケーションとは、『やりとり、交流』を意味し、『問いに答える』、『問いを発する』は、その活性剤」（同感）。「情報を鵜呑みにするだけでは、ボケてしまう。

自分で考える習慣を身につけ、必要に応じて情報のストックある人に、質問して情報を引き出す。この二つの条件は、情報過多の時代に生きるには重要」（正に、実践中）。

「説得の名人は、質問上手。命令で動かすのは説得でなく、相手が進んで動いてくれないと、本来の説得と云えない」（同感）。

「『知らないから教えて欲しい』という気持ちを持ち続けられてこそ、よい質問者になれる」（直ぐに、「教えて」と頼む自分は、よい質問者ということ？）。

「コミュニケーションは、上から下へではなく、横から横に流れるのが望ましい」（要努力）。

「コミュニケーションには、観察力も必要。違うという前提に立ってしっかり相手に目を向ければ、そこに意外な発見が生まれ、次第に相手の心の動きにも敏感になれる」（敏感過ぎるきらいは、どうすれば？）。

「聞く、質問するは、相手の側に回ってみるところ－相手の土俵に上がる－から始まる。相手のセリフを代わりに言えるようになれば、歩み寄りも可能」（実践中なるも更に要努力）。

「質問しづらいと迷わず、相手のフトコロに飛び込み、質問してみよう。恐れは自分が作るもの。思い切ってぶつかっていく経験が、自分に力をつけてくれるものである」（コミュニケーションに限らないことであり、同感）。

「自問自答こそ質問上手への道。自問自答、すなわち自己内対話は、自分の頭でものを考える力を身につけるにはもってこいの方法。自分に向かう質問は、外に向かって発する質問を充実させる。結局、質問上手な人を目指す努力は、自分の器を大きくする努力に等しい」（「常に、思考を！」と、同義かな？　初対面は苦手ということは、自分はまだまだ器が小さいということか…）。

本書は、事例を交えて how　to 的に、「質問」に視点を当ててコミュニケーション上手への道に触れていた。

お互いにコミュニケーション上手になるために、当 HP の記事に大いにご意見をお寄せください。

（2004 年 02 月 27 日　記）